

意思決定 人とAIの関係

一つの目的のために最適な意思決定を行うための要素とプロセスを表し、AIが行える所を示した。

自動分類。既存のカテゴリで分類するのではない。単語の意味、単語属性、単語への意識の強さ、等で分類。

検知できるデータは無条件に日々収集。過去データはできる限り収集。データ収集日とデータ発生日、発生場所、掲載場所を記録。

1データ単位でキーワード群、趣旨を抽出。データ分類、意味区分のまとめ方で、分析結果が変化する。

データ、年月、意味、属性等々の単位で、趣旨が分類され列記する。状況項目が拡散する。

多数方向抽出と方向選択から、不整合項目を取り出し、リスクを抽出。

開発技術の種類、方法抽出は、既に登録されているか、検索された中から取り出される。新たな技術や方法は、人が検討するしかない。

認識項目が拡散した中から、人が持つ知識と意識により、認識列記されたモノが、選別される。適合率の高い順に列記される。

人の意識を通してキーワード群、趣旨を見ると、人の意識の範疇で絞り込まれている。

人、部署、組織のそれぞれの意識、所有している知識を列記する。出来る限り細かく分類し、方法と目的との関連を表しておく。

人だけで意思決定を行う時、**■**の部分をとれほどに取り込み、丁寧な分析が行われているかで最適さが決まる。

無意識、意識しているに関わらず、日常に人がおこなっている意思決定プロセス **■** の部分は、感覚的、直感的に行われている。

